



## 海外 稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。  
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

### 会長メッセージ

オランダは欧州の中央に位置する小国ですが、英語の普及率が高く、空港・道路・学校・病院など社会インフラが整備されている、国際色豊かな暮らしやすい国です。オランダ稲門会の会員数は、現在78人。稲門会の活動は、年4回の懇親会以外にゴルフ、三田会とのボウリング対決、新年会など、オランダの地で大いに盛り上がっています。卒業年度や世代を超えた会員間の交流、ネットワークづくりができればと思っています。

私事ですが、今年の正月、久しぶりに早稲田ラ

グビーを観戦する機会がありました。『荒ぶる』を歌うことはできませんでしたが、復活を願っています。日本は来年、オリンピック・パラリンピックイヤーです。1964年の東京大会では、柔道オランダ代表のヘーシンク選手が無差別級で金メダルを取り、大変な話題になりました。400年を超える日蘭関係の中で文化やスポーツの交流も盛んです。2020年大会では、日蘭両国の代表選手に声援を送ることにになりそうです。

富永英樹(1982年政経)

### 会員からのメッセージ

オランダは韓国、アメリカ西海岸に次いで3番目の海外赴任地となりますが、私にとって特別な場所です。私の出身地である福島県郡山市は、明治時代に安積疏水の实地調査においてオランダ人技師ファン・ドールン氏にお世話になり、また2020年の東京オリンピックではオランダのホストタウンに登録され、非常に親近感を覚えています。

稲門会への参加は韓国に次いで2度目になります。オランダ稲門会は参加メンバーの年代や業界のバランスが程よいので、参加するたびに良い刺激ももらっています。グローバルな早稲田人脈に感謝です。

寺井正浩(1994年法学)

オランダ稲門会に入ったきっかけは、現地の補習校で教えていた際の生徒保護者からのお誘いです。私は国際教養学部の一学生として卒業して、今はライデン大学の日本学科で

日本語教師として働いています。専門は子どものための日本語教育で、昨年には海外在住の日本人・国際結婚家庭の子どもの対象とした日本語教科書『おひさま [はじめのいっぽ]』を刊行しました。馬場歩きの延長で、気付けば遠くに来たものですが、稲門会はいつも楽しく和やかな雰囲気、かっこいい先輩方や後輩たちの話を聞いては、元氣とやる気をフル充電させていただいています。オランダも稲門会も大好きです。

山本絵美(2008年国際教養)

After studying and working for 11 years in Tokyo, I was seconded to the European Headquarters of my company located in Amsterdam. While very happy to be back to Europe, I deeply missed Japan, the country which will always be my second home. Yet, the Netherlands Tomonkai has been a wonderful platform to travel back in time to my Ph.D. days at Waseda University and keep alive the Waseda spirit. Although members change from year to year I enjoy every opportunity to get together with other alumni hoping that the Netherlands Tomonkai will continue to be the HOME for Waseda graduates to come back!

Pranvera Zhaka (2012年経研博後)

若 気の至りから日本を飛び出し、世界を放浪の末、漂着したのがアムステルダム。半世紀以上前の話です。当時建設中だった「ホテルオークラアムステルダム」がオープンし、まだ



2019年春の稲門会(宮永会長送別会)

### オランダ稲門会について

数が少なかった在蘭日本人向けのサービスとして、毎年お正月には年越しそばやおせち料理はもちろん、餅つき大会やビンゴ大会などのイベントが開催されていました。私はこの集まりでオランダに稲門会が存在するのを知り、以後事情が許す限り参加しています。

オランダ稲門会は小規模ながらも発展を続け、単なる飲み会から抜け出し、ボウリングにゴルフにと家族も含めた交流に進化してきました。当然の帰結として、慶應義塾大学オランダ三田会と接触。多くのイベントで早慶戦を立ち上げ、火花を散らしています。2010年に早稲田大学校友会のお誘いでオランダ稲門会は晴れて登録稲門会となり、長い間続いてきた「隠れ稲門会」の幕が下ろされたのです。

久慈 良(1959年商学)

### オランダの魅力

国土の4分の1が海拔ゼロメートル以下のオランダは、13世紀頃から水をくみ上げるなどの干拓工事で国土を広げ、「世界は神が創ったが、オランダはオランダ人がつくった」などともいわれます。街には美しい運河や川が流れ、夏にはみんながボートの上で日光を浴び、冬には凍った運河の上でスケートをするなど、水は生活の大切な一部です。また、オランダといえばチューリップのイメージにたがわず、3月～4月はチューリップが花盛りです。特にこの時期に飛行機などで上空から見ると、赤、オレンジ、黄、ピンクと色とりどりのチューリップが広範囲で地表を覆い、花のじゅうたんさながらの様子が楽しめます。もう一つのオランダ名物は風車。山や急勾配の坂がない平坦地で強風が吹くことから、風力利用は理にかなった伝統と言えます。古風な粉ひき風車小屋から、近年では風力発電用のものまで多種多様な風車が国内に散在します。

山口陽子(1997年文学)



キンテルダイクの風車

ライデンの街並みとチューリップ(左) ライデンの教会と桜(右)

